

令和5年度行政事業レビューシート		(文部科学省)										
事業名	障害のある学生の修学・就職支援促進事業			担当部局	高等教育局	作成責任者						
事業開始年度	令和2年度	事業終了(予定)年度	令和10年度	担当課室	学生支援課	学生支援課長 吉田 光成						
会計区分	一般会計											
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	「第5次障害者基本計画」(令和5年3月14日閣議決定) 「経済財政運営と改革の基本方針2022」(令和4年6月7日閣議決定)							
政策	4 個性が輝く高等教育の振興			主要経費	教育振興助成費							
施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上											
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20210922-mxt_kanseisk02-000017742-4_1.pdf											
事業の目的 (5行程度以内)	先進的な取組や多くの知見を持つ大学等が連携するプラットフォームを形成し、他の大学等がこのプラットフォームに参加することで、さらなる大学間連携や担当者間の連携を促進するとともに、課題に対する情報やノウハウの共有等の組織的なアプローチにより高等教育機関全体として障害学生支援の充実を図ることを目的とする。											
現状・課題 (5行程度以内)	大学等に在籍する障害のある学生数は令和3年5月時点で約4.1万人であり、平成24年から令和3年の10年間で約4倍に増加している。一方、障害学生支援の専門部署を置いている大学等は全体の24.8%、専任の担当者を配置している大学等は21.7%であり、障害のある学生のさらなる受入れに際して、一層の体制整備や支援人材の養成等が必要である。また、障害のある学生への相談窓口を設置している大学等は81.7%、紛争の防止や解決等に関する調整を行う機関を設置している大学等は51.4%であり、障害のある学生からの相談対応や調整機能の強化も必要であるが、現状各大学等における経験や認識の違い等により、大学間での支援の取組に差があることが課題である。											
事業概要 (5行程度以内)	複数の大学等が連携するプラットフォームを形成し、組織的なアプローチにより障害のある学生を支援していくため、以下の取組を推進する。 ・大学等のネットワークや既存の障害学生支援ネットワークを活用し、大学等からの支援体制の整備や支援方法についての相談、合理的配慮の提供や支援内容等に関して困りごとを抱える学生等からの相談に対して、専門的な助言や提案等を行う。 ・連携プラットフォームへの参加大学等を増やすだけでなく、地域における障害学生支援ネットワークの形成支援や既存の障害学生支援ネットワークとの連携等を行う。 ・各大学等で取組が進んでいないもの(情報公開、就職支援等)やコロナ禍における合理的配慮の提供等についての取組事例の収集・展開を行う。 ・学生への「心のバリアフリー」促進に向けた取組を行う。例えば、学生が学生をサポートするピア・サポートを「障害の社会モデル」の観点から効果的に実施する方法の検証や事例収集等を行う。											
事業概要URL												
実施方法	補助											
補助率等	定額補助											
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の 状況	当初予算(A)	令和2年度	30	令和3年度	36	令和4年度	36	令和5年度	35	令和6年度要求	100
		補正予算(B)		-		-		-		-		-
		前年度から繰越し(C)		-		-		-		-		-
		翌年度へ繰越し(D)		-		-		-		-		-
		予備費等(E)		-		-		-		-		-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)		30		36		36		35		100
執行額(G)		30		36		-		-		-		
執行率(%) =(G)/(F)		100%		100%		-		-		-		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		100%		100%		-		-		-		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)							
	(項)	高等教育振興費										
	(目)	大学改革推進等補助金	35									
		その他		100								
	計(A)	35	100									

活動内容① (アクティビティ)	障害のある学生の支援について先進的な取組や知見を持つ複数の大学を対象に、大学等が連携するプラットフォーム形成を支援し、各大学等の障害のある学生の支援の充実を図る。								
↓									
活動目標及び活動実績① (アウトプット)	活動目標	活動指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	プラットフォームの形成	障害のある学生の修学・就職支援促進事業の実施拠点校数	活動実績	件数	2	2	2	-	-
			当初見込み	件数	2	2	2	2	-
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	大学等に在籍する障害のある学生数は10年間で約4倍に増加しており、各大学等においては障害のある学生からの相談対応の強化が求められている。そこで、先進的な取組みや知見を持つ複数の大学等が連携するプラットフォームにおいて専門的な助言や提案を行うことが障害学生支援の充実につながることから、障害学生支援に関する大学等からの相談対応の拡充を短期アウトカムとして設定した。							
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度	
	障害学生支援に関する大学等からの相談対応の拡充	本事業における障害学生支援に関する大学等からの相談件数	成果実績	件	103	147	224	-	
			目標値	件	100	150	-	300	
			達成度	%	103	98	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績 障害のある学生の修学・就職支援促進事業 調査・申請書・実績報告書									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	相談対応の拡充により、大学等プラットフォームにおいて各大学等で取り組みが進んでいないものや合理的配慮の提供等についての好事例を収集するとともに、各大学等へ展開することで、高等教育機関全体として障害学生支援の充実につながることから、事業に参加する大学等の増加を中期アウトカムとして設定した。							
成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度	
	事業に参加する大学等の増加	本事業における大学等の参加数	成果実績	校	72	83	91	-	
			目標値	校	71	75	-	85	
			達成度	%	101.4	110.7	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績 障害のある学生の修学・就職支援促進事業 調査・申請書・実績報告書									
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	大学等連携プラットフォームが充実することでより効果的な支援が可能となり、高等教育へのアクセスを希望する学生がその意欲と能力に応じて大学等で学べる機会の確保につながることから、高等教育機関への志願者数が上昇すると考えられるため、長期アウトカムとして設定した。							
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5年度	
	障害のある学生における志願者数の増加	障害のある学生の大学・短期大学・高等専門学校への志願者数	成果実績	人	7,832	8,464	9,639	-	
			目標値	人	-	-	-	9,885	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績 令和3年度(2021年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査報告書(独立行政法人日本学生支援機構)									
アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
アウトカム設定についての説明									

文部科学省
36.1百万円

〔対象大学等から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取り組みを選定し、補助金を交付〕

【補助】

A. 国立大学法人東京大学
18.1百万円

B. 国立大学法人京都大学
18.1百万円

- ・複数の大学等のネットワークや既存の障害学生支援ネットワーク等による取組等を活用し、障害のある学生への修学や就職支援の留意点等を共有化するプログラムを構築する。
- ・地域包括連携ミーティング等により、大学、福祉や労働行政機関、障害者支援団体、企業等との関係機関との連携体制を構築するとともに、障害のある学生にとって就職後のイメージを確立できるようなロールモデルの事例の収集・提供を行う。
- ・複数の大学等のネットワークや既存の障害学生支援ネットワーク等による取組等を活用し、大学等からの相談に対しての専門的な助言を行う。
- ・得られた知見等の成果を集約し、全国の大学等に普及・展開を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費・謝金	人件費、謝金		11.7	人件費・謝金	人件費、謝金	9.7
その他事業費	外注費、印刷製本費、会議費 等		4.3	その他事業費	外注費、印刷製本費、会議費 等	5.2
旅費	旅費		1.7	物品費	設備備品費、消耗品費	1.7
物品費	設備備品費、消耗品費		0.4	旅費	旅費	1.5
計			18.1	計		18.1

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人東京大学	5010005007398	障害のある学生の修学・就職支援促進事業	18	補助金等交付	-	-	-

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人京都大学	3130005005532	障害のある学生の修学・就職支援促進事業	18	補助金等交付	-	-	-
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	